小平市公民館運営審議会
令和５年度第６回　資料１

館長報告

令和６年３月市議会定例会
代表質問・一般質問（公民館関係）抜粋

令和６年３月２６日（月）～３月２７日（水）

小平市中央公民館

（代表質問）

【質問内容　１】　日本共産党小平市議団　細谷　正

日本国憲法を市政に生かした防災、暮らし、福祉、教育優先の小平市へ

日本共産党小平市議団は、日本国憲法と地方自治法を生かした市政を自覚し、積極的な提案や要望を繰り返し行ってきました。2024 年元旦には、能登半島地震により甚大な被害が生じました。また、世界情勢を見るとロシアによるウクライナ侵略やイスラルとパレスチナ紛争が起こり命の危険、人権が脅かされている悲惨な状況が続いています。そうした中、厳しい社会情勢において、国内では先行きの見えない物価高騰等、貧困と格差が市内においてもますます広がっているもとで、防災、暮らし、福祉、教育優先の市政の実現を求め、以下質問いたします。

１．今後の小平市を見据えたまちづくりについて問う

（1）公民館、地域センター等の公共施設における運営はこれまでの直営を堅持するべきと考えるが見解を伺います。

【答弁内容】

公民館の運営でございますが、現在の公民館につきましては、市職員が直接運営を行っており、引き続き、同様の運営を実施していく予定でございます。

（一般質問）
【質問内容　１】　フォーラム小平　岩本　誠
デジタルディバイド解消に必要な寄り添った対応について

社会のデジタル化も急速に進み、デジタルの恩恵を受けられる層と受けられない層の情報格差(以下デジタルディバイドという)が問題視され、特にシニア世代へのデジタルディバイド解消が必要となっている。「情報通信機器の利活用に関する世論調査」(令和５年７月調査)ではスマートフォンやタブレットを「ほとんど利用していない」または「利用していない」と回答した方に対し、利用していない理由について調査した結果、60 歳～69 歳においては「どのように使えばよいかわからないから」(57.8 %)という理由が突出しており、そこには、４つの問題として①技術的な理解の欠如、②必要性の認識不足、③寄り添ったサポート体制の欠如、④セキュリティーへの懸念があると考えられる。ここで、小平市の現状と課題を明確にし、併せて解消策について以下の通り質問する。

１．デジタルディバイド対策として実施している事業について、その呼称、目的、費用、効果を①市のＤＸ担当が主体で推進しているもの、②健康福祉部が主体として推進しているもの、③公民館で実施しているものに分けてお知らせ下さい。
２．公民館での高齢者向けスマートフォン体験会が市報で紹介されているが、その現状と課題はなにかお知らせ下さい。
３．有効と考えられるシニア世代への施策について市の取組状況と考えをお聞かせ下さい。
(1) 推進を育てて組織化する　①シルバー大学、卒業生との連携

【答弁内容】
１．公民館で実施しているデジタルディバイド対策でございますが、本年度は、スマートフォンやタブレット端末の活用方法を習得していただくことなどを主な目的として、定期講座等を 17 コース開設しております。また、その費用といたしましては、おおむね 107 万円を見込んでおります。効果といたしましては、多様なメニューを提供することによって個別のニーズに対応したデジタルディバイド対策の一助になっているものと認識しております。
２．公民館でのスマートフォン体験会の現状でございますが、本体験会は東京都が主催するもので、60 歳以上のスマートフォンをお使いでない方や、操作に不慣れな方を対象として、基本的な操作を体験していただくことを目的として実施しております。公民館では令和 3 年度から会場の提供や広報の協力を行っており、本年度は市内公民館全館で合計 22 回の体験会を実施しております。
課題といたしましては、体験会の参加者は後期高齢者の方が多く、繰り返し同じ内容での実施を希望する声が多い一方で、アプリの活用などの多様なご要望もいただいており、その対応が今後の課題と認識しております。
３．シルバー大学、及び その卒業生との連携でございますが、シルバー大学では、市民団体について学ぶ学習テーマを設け、地域で活躍するためのきっかけづくりとなるよう努めており、卒業生が結成したサークルにおいて、スマートフォンやパソコンの相談会を実施している事例もございます。
また、サークル間の連絡会を定期的に実施し、活動内容の共有などが行われております。
今後も、シルバー大学と卒業生が連携できるよう検討してまいります。

【質問内容　２】　市議会公明党　佐藤　徹

市立小学校の総合的な学習のさらなる充実と市立中学校の保護者負担の軽減を目指して

市立小学校の総合的な学習のさらなる充実と市立中学校の保護者負担の軽減を目指して以下質問致します。

１．日本の伝統芸能のひとつでもある「浪曲」、昨年の 11 月 3 日には、中央公園でのコダレンジャーとのコラボイベントや本年 2 月 11 日には千代田区内のホールで開催された江戸浄瑠璃、義太夫と常磐津の舞台での出演でも大きな反響のあった「小平誕生ものがたり『九郎兵衛　村を拓く』」については、新進気鋭の女性浪曲師が三味線にのせて、こぶしの利いたダイナミックな節回しで語り、歌い観客を魅了致しました。日本の伝統芸能に直接ふれる機会のみならず、こだいらの開拓の歴史についても学ぶ機会ともなると考え今後、市内の小学校の「総合的な学習の時間」等の授業また公民館まつり等にもお招きしてはどうかと考えるが、市の見解を伺う。

【答弁内容】

１．公民館まつりにつきましては、各公民館の利用者の方々で構成するまつり実行委員会において演目を決定しております。公民館まつりでは、すでに三味線、落語などの伝統芸能の公演を行っておりますが、実行委員会の委員が年度ごとに演目を決定しておりますことから、実行委員会から意見を求められた際には浪曲などを紹介してまいります。

【質問内容　３】　日本共産党小平市議団　三輪　博美

小平第十一小学校等複合化の見直しを求める

花小金井北地域センター、花小金井北公民館を廃止し、2 つを複合化して「(仮称)地区交流センター」とする小平第十一小学校等複合施設の整備に関する基本設計方針素案(2023 年 12 月)が発表されましたが、私たちとしては公共施設マネジメント計画を進めるために、大きく２つの課題があると考えています。その一つは、小平市の将来人口推計値に基づく、人口のピークの変化です。2030 年には、20 万 2767 人と推計されることから、市は「公共施設マネジメント計画では、最新の人口推計により、児童・生徒数の減少時期も後ろ倒しになる場合、これに応じて学校施の統合時期も繰り延べる必要がある」と方針転換をしました。花小金井地域は、今後もさらに人口の増加が予想される地域でもあり、そうした状況においても、計画時期について後ろ倒しにする必要があるのではないでしょうか。

二つめは、令和 6 年能登半島地震からみえてきた課題です。「災害があったときは不安になる。どこに避難すればいいのか」との声もお聞きしました。身近に公共施設があり、地域コミュニティが形成されていることの重要性が再認識されています。施設複合化は、こうした角度からも、真剣な検討が求められると思います。公共施設縮減によるコスト削減ではなく、小平市の自治基本条例に基づき、市民主体のまちづくりを求め、以下質問します。

１．今後、公民館と地域センターが、小学校と複合化されることにより、「社会教育法」における公民館の定義、小平市公民館条例の位置づけはどのように変わるのか、見解を伺います。

【答弁内容】

１．現時点では社会教育法における公民館の機能に変化はないものと想定しております。また、公民館の機能を移転させるとしていることから、所在地の変更などはございますが、小平市公民館条例の位置づけなどについても変化はないものと想定しております。